

2024年2月27日

2023年度聖路加国際大学 大学院看護学研究科
課題研究

クリティカルケア領域における身体拘束を減少させる
ための組織で行う看護管理に関する文献レビュー

Literature Review on Organizational Nursing Management to
Reduce Physical Restraints in Critical Care Areas

22MN033

渡辺 朋子

要旨

目的

急性期病院において、倫理的側面から、身体拘束減少に向けた取り組みが行われている。クリティカルケア領域に入院する患者には生命維持のための挿入物が多く、計画外抜去等による生命の危険性から、身体拘束の使用を減らすことが困難な現状がある。クリティカルケア領域における身体拘束の減少は、看護師個人の判断に委ねられるものではなく、組織としての意思決定や、取り組みが必要である。

研究目的は、クリティカルケア領域における身体拘束を減少させるための組織が行う看護管理についての方策を明らかにすることである。

方法

スコーピングレビューの手法を参考にして文献検討を行った。データベースは、医学中央雑誌、PubMed、CINAHL、Cochrane とし、ICU・クリティカルケア領域における身体拘束の減少や軽減について記載されている文献を検索した。文献は2013年～2023年に報告された原著論文、日本語、英語で記載された文献とした。

結果

検索の結果、11 文献を検討対象とした。クリティカルケア領域における身体拘束を減少させるための組織で行う看護管理の方策として、【組織の現状分析】、【プロジェクトの立ち上げ】、【組織による意思決定】、【組織文化の改革】、【施設における基準作り】、【身体拘束関連データのモニタリング】、【情報の共有】、【身体拘束アセスメントの強化】、【患者への看護実践の充実】、【多職種による協働】、【教育的介入】、【リーダーシップの発揮】、【スタッフのモチベーションの活性化】、【物品の管理】の、14 個の看護管理に関する方策が示された。

結論

クリティカルケア領域における身体拘束減少に向け、組織文化の変革を推進することで、不適切な身体拘束の減少につながる可能性がある。また、クリティカル領域における、身体拘束減少には、原疾患に対して、エビデンスに基づいた学際的アプローチの実践とともに、多角的な非薬理学的アプローチによる看護実践の充実を図ることが必要である。今後の課題としては、これらの取り組みを継続して行えるよう、組織の仕組み作りと、クリティカルケア領域における身体拘束減少に関するエビデンス構築に向けた更なる研究が必要である。